

『東北大学学報』・『広報』表紙について (続)

- 学術と風流 (2) -

大 原 理 恵

はじめに

前稿¹⁾において大正末期以降の東北大学の学報・(学内) 広報について年代を追って表紙の変遷を中心に概観したが、本稿では昭和42年以降の学報表紙について、概ね一年毎に定められるテーマの内容にしたがって分類し、やや詳細に見て行くことにしたい。

今回は、大学構成員に対する大学についての情報伝達の性格が比較的強い学内行事・施設・研究・所蔵品の紹介、大学・キャンパスの変遷・歴史の記述を特集した年の表紙を対象とする。【表1】の背景の白い部分である。『東北大学学報』第608号 昭和37年10月1日から開始された「学内めぐり」連載²⁾では上記要素が取り合わされているが、それを整理し一年毎の特集としたかたちであるともいえる。

次稿において扱う「みちのくの歌枕」「桃山のかおりをたずねて」等は、執筆者の研究分野に基づくものとはいえ、「大学」から逸脱し「東北」を対象とする傾向が顕著になる。

【表1】『学報』の表紙特集 昭和42年以降³⁾

刊行年	特集	執筆担当者	刊行年	特集	執筆担当者
昭和42年	ミクロの影像	抗酸菌病研究所等	昭和53年	庭の草花	加藤陸奥雄 (前学長)
昭和43年	学園内の野鳥と野草	加藤陸奥雄 (理学部教授)・竹丸克朗・相馬寛吉 (理学部助教授)	昭和54年	ミニ季寄せ 画・文・句	永野為武 (孫柳) (名誉教授)
昭和44年	学園歳時記		昭和55年	みちのくの歌枕	扇畑忠雄 (名誉教授)
昭和45年	附属施設めぐり		昭和56年	大学の四季	
昭和46年	本学にある貴重文献の紹介	附属図書館	昭和57年	東北大学ゆかりの絵画	原田隆吉
昭和47年	本学にある貴重文献の紹介	附属図書館	昭和58年	桃山のかおりをたずねて	高橋富雄 (教養部教授)
昭和48年	青葉山の葉草薬樹		昭和59年	仏像——東北の心と形	高橋富雄 (教養部教授)・山本研一 (事務部長)
昭和49年	片平丁キャンパスの今昔	原田隆吉	昭和60年	「おくのほそ道」ところどころ	原田隆吉
昭和50年	川内風土記	高橋富雄 (教養部長)	昭和61年	いろいろな化石	森啓 (理学部地学地質学講座 助教授)
昭和51年	星陵地区キャンパスの今昔	山形 敏一 (医学部教授)	昭和62年	八甲田の植物	理学部附属八甲田山植物実験所
昭和52年	東北大学今昔画話	渡辺 萬次郎 (名誉教授)	昭和63年～	研究紹介	

※執筆者の所属・身分は当時のもの

1) 『『東北大学学報』・『広報』表紙について - 学術と風流 (1) -』大原理恵『東北大学史料館紀要』14 2019年3月

2) 同上 104-106頁参照

3) 同上 107頁掲載【表2】を 加筆再録。

また、今回は大学関係者の書画に特に注意をすることにした。
この時期の『学報』表紙の画像を各年度から1号分を選び、一覧として示す【図1】。

【図1】『東北大学学報』表紙 昭和42年－昭和63年



行事・施設・研究・所蔵品

「学園歳時記」昭和44年 「大学の四季」昭和56年

【表2】

学園歳時記			大学の四季		
号	刊行年月日	表題	号	刊行年月日	表題
758	昭和44年1月1日	とりの名のついた植物	1046	昭和56年1月1日	上空からみた青葉山・川内キャンパス
759	昭和44年1月15日	運転を開始した大型電子計算機	1047	昭和56年1月15日	1月10日・11日の両日 昭和56年度共通1次学力試験行われる
760	昭和44年2月1日	入学試験の願書受け付け始まる	1048	昭和56年2月1日	キャンパスの雪景色 ※記録的大雪
761	昭和44年2月15日	指定統計指示説明会開催される	1049	昭和56年2月15日	2月9日～16日 入学試験の出願受付行われる
762	昭和44年3月1日	理学部（生物学科・地学系三学科）の建物完成間近	1050	昭和56年3月1日	最終講義
763	昭和44年3月15日	停年退官教授送別会開かれる	1051	昭和56年3月15日	（植物園のネコヤナギ）※表題ナシ
764	昭和44年4月1日	卒業証書授与式・学位記授与式が挙行される	1052	昭和56年4月1日	卒業証書授与式・学位記授与式
[765]	昭和44年4月15日	昭和44年度学部入学式挙行される	1053	昭和56年4月15日	川内キャンパスの桜
766	昭和44年5月1日	医学部薬学科青葉山へ移転	1054	昭和56年5月1日	医療業務の電算化進む……医学部附属病院
767	昭和44年5月15日	図書館本館屋上塔屋の修理終る	1055	昭和56年5月15日	牛の放牧始まる
768	昭和44年6月1日	工学部の運動会行なわれる	1056	昭和56年6月1日	海上運動会
769	昭和44年6月15日	高速力学研究所の新しい建物の完成間近	1057	昭和56年6月15日	医学祭
770	昭和44年7月1日	永年勤務者の表彰について	1058	昭和56年7月1日	永年勤務者表彰式
771	昭和44年7月15日	昭和44年度東北地区社会教育主事講習会始まる	1059	昭和56年7月15日	キャンパスにも本格的夏来る
772	昭和44年8月1日	外国人留学生見学旅行行なわれる	1060	昭和56年8月1日	医学部附属病院の七夕飾り
773	昭和44年8月15日	昭和44年度新規採用職員研修実施される	1061	昭和56年8月15日	初秋の影が長くなったキャンパス
774	昭和44年9月1日	医学部附属病院臨床研究棟完成	1062	昭和56年9月1日	活気の戻ったキャンパス
775	昭和44年9月15日	昭和44年度東北地区国立学校等庶務系中堅職員研修行なわれる	1063	昭和56年9月15日	ハギ・ススキ、仲秋の青葉山キャンパスに咲く
776	昭和44年10月1日	胃の集団検診行なわれる	1064	昭和56年10月1日	外国人留学生ホームビジット
777	昭和44年10月15日	昭和44年度外国人留学生史跡見学旅行	1065	昭和56年10月15日	合同慰霊祭
778	昭和44年11月1日	死体解剖慰霊祭行なわれる	1066	昭和56年11月1日	大学祭
779	昭和44年11月15日	大学祭行なわれる	1067	昭和56年11月15日	臨地講演
780	昭和44年12月1日	看護学校の戴帽式行なわれる	1068	昭和56年12月1日	女子学生の集い
781	昭和44年12月15日	昭和44年文部省永年勤続者の表彰状伝達式行なわれる	1069	昭和56年12月15日	近代的装備のボイラ

まず『学報』としては正統の企画といえる、学内行事紹介の二つの連載を比較してみる。約十年余で類似するテーマが反復されていることになるが時代の相違は顕著で、昭和44年は従来の行事報告に近く、昭和56年は季節の風物を取りあげることが多く「風流」の傾向が強い。雪・桜・夏・七夕・初秋・ハギ・ススキなどであるが、「キャンパス」の語が多いのも目立つ。写真説明も全体に短く簡潔になっている。昭和57年からは、表紙説明の文字は裏面に移り、表紙は主に写真で構成されることになる（図1参照）。

昭和44年は、キャンパス移転が行なわれた時期であるため、建築関連が多くなったと考えら

れる。事実の報告とはいえ読者が自然に注目する内容であったといえよう。

「ミクロの影像」 昭和42年 「附属施設めぐり」 昭和45年

【表3】

号	刊行年月日		関連部局	写真
710	昭和42年1月1日	【羊の群】	農学部附属農場所見	
711	昭和42年1月15日	ミクロの影像-1-	抗酸菌病研究所	がん細胞
712	昭和42年2月1日	ミクロの影像-2-	農学部	タバコ・モザイク・ウイルス
713	昭和42年2月15日	ミクロの影像-3-	金属材料研究所	二方向性珪素鋼鉄の磁区模様
714	昭和42年3月1日	ミクロの影像-4-	理学部	にんぎょうひどら
715	昭和42年3月15日	ミクロの影像-5-	農学部	マダコの視細胞
716	昭和42年4月1日	【卒業証書授与式】		
717	昭和42年4月15日	ミクロの影像-6-	科学計測研究所	石綿繊維の断面像
718	昭和42年5月1日	【入学式】		
719	昭和42年5月15日	ミクロの影像-7-	電気通信研究所	磁気テープに記録した信号の磁化模様
720	昭和42年6月1日	ミクロの影像-8-	選鉱製錬研究所	ハロイサイト結晶
721	昭和42年6月15日	ミクロの影像-9-	医学部	HeLa細胞で培養増殖したポリオウイルス
722	昭和42年7月1日	ミクロの影像-10-	農学研究所	イネごまはがれ病菌 (Helminthosporium oryzae) の分生胞子
723	昭和42年7月15日	ミクロの影像-11-	工学部	珪酸石灰水合物 (Calcium Silicate Hydrate)
724	昭和42年8月1日	ミクロの影像-12-	医学部	細胞の核
725	昭和42年8月15日	ミクロの影像-13-	理学部	ウニの卵の表層粒
726	昭和42年9月1日	ミクロの影像-14-	歯学部	歯石
727	昭和42年9月15日	ミクロの影像-15-	抗酸菌病研究所	癩細胞と癩菌およびサルフォン剤 (プロミンなど) の効果
728	昭和42年10月1日	ミクロの影像-16-	医学部附属脳疾患研究施設	脳腫瘍細胞のβ-glucuronidase
729	昭和42年10月15日	ミクロの影像-17-	農学部	山羊下顎骨の鉛線
730	昭和42年11月1日	ミクロの影像-18-	金属材料研究所	金の蒸着薄膜
731	昭和42年11月15日	ミクロの影像-19-	電気通信研究所	酸化亜鉛単結晶の蝕像
732	昭和42年12月1日	ミクロの影像-20-	科学計測研究所	バリウムフェライト単結晶の磁区模様
733	昭和42年12月15日	ミクロの影像-21-	選鉱製錬研究所	赤金鉱 (Akaganite) の結晶

【表4】

附属施設めぐり					
782	昭和45年1月1日	文学部附属日本文化研究施設	794	昭和45年7月1日	農学部附属水産実験所
783	昭和45年1月15日	大型計算機センター	795	昭和45年7月15日	医学部附属温泉医学研究施設
784	昭和45年2月1日	保健管理センター	796	昭和45年8月1日	理学部附属地磁気観測所
785	昭和45年2月15日	記念資料室	797	昭和45年8月15日	理学部附属浅虫臨海実験所
786	昭和45年3月1日	科学計測研究所附属特殊精密工作研究施設	798	昭和45年9月1日	理学部附属八甲田山植物実験所
787	昭和45年3月15日	医学部附属脳疾患研究施設	799	昭和45年9月15日	理学部附属秋田地殻変動観測所
788	昭和45年4月1日	昭和44年度卒業証書授与式および学位記授与式挙行さる	800	昭和45年10月1日	理学部附属本荘地震観測所
789	昭和45年4月15日	工学部附属材料強度研究施設	801	昭和45年10月15日	金属材料研究所附属材料試験炉利用施設
790	昭和45年5月1日	(理学部附属青葉山地震観測所)	802	昭和45年11月1日	理学部附属三陸地殻変動観測所
791	昭和45年5月15日	(理学部附属) 原子核理学研究施設	803	昭和45年11月15日	理学部附属北上地震観測所
792	昭和45年6月1日	東北大学附属植物園	804	昭和45年12月1日	科学計測研究所太陽炉
793	昭和45年6月15日	農学部附属農場、演習林	805	昭和45年12月15日	東北大学計算センター

これらも大学の研究紹介・施設紹介という正統的特集である。「ミクロの影像」で紹介されているのが理系の部局・施設の研究であるのは、特集の性質によるものであろうが、「附属施設めぐり」も「日本文化研究施設」「記念資料室」以外は理系であるのは、大学の実態の反映であろう。ただ、かつての「学内めぐり」においても、研究関係記事については理系が多い傾向⁴⁾にあった。

「附属施設めぐり」のなかで、『東北大学学報』第785号 昭和45(1970)年2月15日に「記念資料室」が紹介されている。この「記念資料室」は現在の東北大学史料館の前身であるが、説明には「昭和38年7月16日に設置された。現在附属図書館片平丁構内の一室にあり」とあって、三枚の写真が取り合わされている。その内の一つが【写真1】で、写真説明には「この扁額は、



【写真1】「大道平坦」の額

本学初代総長沢柳政太郎の筆によるものである。この大道平坦の文字は、平素の心境を書いたものと思われる。」とある。初代総長直筆の書であり、代表的資料として重視されたものであろう。また、この資料は保管庫に収蔵されていたのではなく、長い間実際に掲げられた状態にあった。しかし、現在は史料館の保管庫に収められているのでその経緯についてここに記しておきたい。

片平にあった附属図書館本館は川内に移転し(昭48(1973)年11月開館)記念資料室も新営本館内に置かれた。『東北大学記念資料蔵品目録』昭和58(1983)年3月(41頁)には次のような説明があり、「大道平坦」の額は附属図書館の会議室に掲げられていたことがわかる。

沢柳政太郎初代総長条幅「大道平坦」 1枚 早川房子 昭和43.7.17受

早川房子氏は本学創立のころ仙台市長として令名あった早川智覚氏の子孫にあたる方。沢柳総長が画箋紙に横書きに大書したものを寄贈され、本室で表装し、附属図書館会議室に掲げておくものである。この語は総長の言としてまことにふさわしい。印章などは全くなく気楽に書かれたらしい。

昭和61(1986)年10月 片平の旧附属図書館本館が改修され、そこに記念資料室が再び置かれた。「大道平坦」の額は、記念資料室の所蔵品ではあるが、そのまま川内の附属図書館本館会議室に掲げられた【写真2】。



【写真2】川内の附属図書館本館会議室に掲げられた「大道平坦」の額

「和漢古書整理教室の開催について」情報管理課 木這子 Vol.32 No.4通巻121号 平成20年3月掲載写真(部分)

4) 『東北大学学報』・『広報』表紙について-学術と風流(1)- 大原理恵(注1と同)104頁

会議室では各種の委員会等が行なわれたから、この額を目にした人は相当な人数になるはずである。会議室の廊下側の壁にあり、会議室の窓を背にして司会者が席に着けば正面にこの額が見える位置であった。

平成24(2012)年8月⁵⁾附属図書館本館事務室改修工事にもない会議室は臨時に事務室として使用されることになり、万一事故があつてはという配慮から「大道平坦」の額は会議室の壁より外され、附属図書館協力研究員室で保管することになった。結果的には、これ以降この額は「保管」状態となった。平成25(2013)年10月協力研究員室も移転することとなり、額は図書館内の別な場所に移し、最終的には附属図書館内貴重書庫で保管した。改修工事終了後、再度しかるべき場所に掲げる案もあつたようであるが、東日本大震災の後、落下の危険性があるものの取り付けは避ける方向性が強かつたことなども関係したのか、実現せず、さしあたっての利用案がない状況が続いた。附属図書館貴重書庫は保管場所としては優れているが、この額は図書館職員の目にもほとんど触れることがない状態となった。

平成30(2018)年6月、附属図書館・史料館の共同開催で「東北大学と旧制二高展」を附属図書館本館内の会場で行い、「大道平坦」の額も出陳⁶⁾した【写真3】。これを契機に附属図書館と史料館で協議、史料館で保管することとし、同年8月に史料館に運び保管庫に収めた。



【写真3】「東北大学と旧制二高展」展示状況 附属図書館本館1号館多目的室 2018年6月 東北大学附属図書館情報サービス課貴重書係撮影

「本学における貴重文献の紹介」 附属図書館 昭和46年・昭和47年

附属図書館本館は昭和47年10月に川内の新営本館が竣工、昭和48年11月に全面開館した。附属図書館が、月例で図書の展覧を行ない、『学報』における広報活動にも積極的であることは、前稿⁷⁾に記した。この連載はその延長とも見なせるが、川内移転以降展示の回数が減少⁸⁾する。館報『木這子』の発刊は昭和51年4月のことである⁹⁾ので、『学報』がこの時期附属図書館の広報にとっては特に重要であったであろう。紹介された資料のほとんどは現在も貴重図書として扱われているものである。

5) 以下の記述は筆者の記憶やメモによるものを含む。

6) 澤柳は第二高等学校第2代校長(任期:1897年4月8日-1898年7月20日)でもある。

7) 「『東北大学学報』・『広報』表紙について」大原理恵 東北大学史料館紀要14 東北大学史料館 2019年3月・「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について(四) -平成8年4月別置本目録増改訂プロジェクト設置以前-」大原理恵 東北大学史料館紀要 11 東北大学史料館 2016年3月 44頁

8) 「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について(四) -平成8年4月別置本目録増改訂プロジェクト設置以前-」大原理恵 東北大学史料館紀要 11 東北大学史料館 2016年3月 45頁

9) 『木這子』Vol.1, No.1(通巻1号) 東北大学附属図書館 昭和51年4月30日

【表5】

本学にある貴重文献の紹介					
号	刊行年月日	表題	号	刊行年月日	表題
806	昭和46年1月1日	百万塔陀羅尼	830	昭和47年1月1日	臨顧愷之女史箴卷
807	昭和46年1月15日	ACTA ERUDITORUM	831	昭和47年1月15日	奥羽観蹟聞老誌 稿本
808	昭和46年2月1日	舎密開宗	832	昭和47年2月1日	ミラボー プロイセン王国論
809	昭和46年2月15日	アインシュタインの書簡	833	昭和47年2月15日	ふじの人あなさうし
	昭和46年2月15日 号号外	故本川学長大学葬特集号	834	昭和47年3月1日	エウクレイデス（エウクリッド）幾何学原本
810	昭和46年3月1日	伊勢物語	835	昭和47年3月15日	新刊仁斎直指附遺方論二六卷
811	昭和46年3月15日	稿本「遠西医範」 刊本「銅板解剖図」	836	昭和47年4月1日	昭和46年度卒業証書授与式および学位授与式挙行さる
812	昭和46年4月1日	政事算術	837	昭和47年4月15日	御用鑄銭場図絵
813	昭和46年4月15日	新板江戸大絵図	838	昭和47年5月1日	金平千人きり
814	昭和46年5月1日	蝦夷土産道中雙六 竹島雑誌	839	昭和47年5月15日	モンテスキュー 法の精神
815	昭和46年5月15日	エンゲルスの二著作	840	昭和47年6月1日	好色一代女 日本永代蔵
816	昭和46年6月1日	筆満可勢	841	昭和47年6月15日	西説内科選要巻12
817	昭和46年6月15日	三国通覧図説附図初版	842	昭和47年7月1日	フロイス 日本年報
818	昭和46年7月1日	竹とり	843	昭和47年7月15日	和国名所鑑 岩木絵つくし
819	昭和46年7月15日	貞享暦	844	昭和47年8月1日	尊人説
820	昭和46年8月1日	原田甲斐宗輔手簡	845	昭和47年8月15日	百科全書
821	昭和46年8月15日	南北朝覆元刊本大広益会玉篇	846	昭和47年9月1日	拾遺往生伝 采覧異言
822	昭和46年9月1日	福沢諭吉書簡	847	昭和47年9月15日	中外新聞
823	昭和46年9月15日	夏目漱石自筆俳句稿		昭和47年9月15日 別冊	天然記念物青葉山
824	昭和46年10月1日	マルクス哲学の貧困	848	昭和47年10月1日	正徳集
825	昭和46年10月15日	パチョーリ算術・幾何・比および比例全書	849	昭和47年10月15日	阿毗達磨問俱舎論卷第廿六
826	昭和46年11月1日	往生西方浄土瑞応刪伝	850	昭和47年11月1日	一切経音義卷第十三
827	昭和46年11月15日	ケンペル「日本誌」	851	昭和47年11月15日	山谷老人刀筆
828	昭和46年12月1日	海幸 勝間竜水画 石寿観秀国編	852	昭和47年12月1日	佐渡鉱山金銀採製全図
829	昭和46年12月15日	スミス「国富論」	853	昭和47年12月15日	ニーチェ書簡 1通 1884年5月 パーネット博士宛

「東北大学ゆかりの絵画」昭和57年 原田隆吉¹⁰⁾

絵画を中心とした、より視覚的効果を重視した特集といえ、多色印刷の試みも行なっている。絵画作品を対象とするにあたっては、印刷品質¹¹⁾についての確証が背景にあったことであろう。杉村惇画「泰山木」（1080号 昭和57年6月1日 東北大学ゆかりの絵画（11））が、大学創立75周年記念号の表紙を多色印刷で飾っている。

「ゆかり」のありかたは、東北大学構成員が画いたもの、東北大学構成員を画いたもの、東北大学または東北大学関係者が所蔵しているものなど多様であり、絵画としても、安井曾太郎の代表作「T先生の像」（1079号 昭和57年5月15日 東北大学ゆかりの絵画（10））から、本多光太郎教授の

10) 『東北大学学報』1093号 昭和57年12月15日 13頁「お知らせ」参照。

11) 「この計画をうかがった時は、やや心配の念を禁じえなかったが、広報調査課の御協力で立派な写真が色刷りを交えて続々登場し、思ったより立派なものとなった」『東北大学学報』1093号 昭和57年12月15日「あとがき」原田隆吉

戯画 (1088号 昭和57年10月1日 東北大学ゆかりの絵画 (19)) のようなものまである。医学部関係者¹²⁾ のものがかなり多いのも目につく。

特殊なものでは、本川弘一第12代総長画の水墨画 (1075号 昭和57年3月15日 東北大学ゆかりの絵画 (6)) は、東北大学青葉山キャンパス建設時に設けられた青葉橋 (昭和43年4月開通式・【写真4】) 名称募集の際、採用者に対する記念品が学長自筆絵画とされたという事情による。なお表紙の画は、採用されなかったが特に好評であった案に対して贈られたものである。



【写真4】青葉橋開通式 テープカットを終え青葉橋を渡る本川学長ら 昭和43年4月6日
東北大学関係写真データベース 東北大学史料館
※左側後方に仙台の街が見える

【表6】

号	刊行年月日		画者	表題
1070	昭和57年1月1日	東北大学ゆかりの絵画 (1)	鈴木千久馬 画	薔薇
1071	昭和57年1月15日	東北大学ゆかりの絵画 (2)	安井曾太郎 画	本多先生の像
1072	昭和57年2月1日	東北大学ゆかりの絵画 (3)	オーギュスト・ルノワール 画	二婦人
1073	昭和57年2月15日	東北大学ゆかりの絵画 (4)	和田英作 画	吉村寅太郎先生の像 ※二高初代校長
1074	昭和57年3月1日	東北大学ゆかりの絵画 (5)	熊谷岱蔵 (7代総長・医) 画	阿寒摩周湖之暁
1075	昭和57年3月15日	東北大学ゆかりの絵画 (6)	本川弘一 (12代総長・医) 画	水墨画 禅房花木深
1076	昭和57年4月1日	東北大学ゆかりの絵画 (7)	渡辺萬次郎 (理) 画	川内風景, スケッチ2点
1077	昭和57年4月15日	東北大学ゆかりの絵画 (8)	金山平三 画	阿刀田令造先生の像 ※二高9代校長
1078	昭和57年5月1日	東北大学ゆかりの絵画 (9)	太田正雄 (医) 画	鯉 ※関口蕃樹 (医) 教授書画帖
1079	昭和57年5月15日	東北大学ゆかりの絵画 (10)	安井曾太郎 画	T先生の像 ※玉蟲一郎・二高8代校長
1080	昭和57年6月1日	東北大学ゆかりの絵画 (11)	杉村惇 画	泰山木
1081	昭和57年6月15日	東北大学ゆかりの絵画 (12)	児島喜久雄 (法文) 画	中村善太郎先生の像 ※西洋史初代教授
1082	昭和57年7月1日	東北大学ゆかりの絵画 (13)	坂井 (不詳) 画	真島利行先生の像 ※理学部教授
1083	昭和57年7月15日	東北大学ゆかりの絵画 (14)	佐藤多都夫 画	水彩状況シリーズ12
1084	昭和57年8月1日	東北大学ゆかりの絵画 (15)	菅井庄五郎 (医学部附属病院画工手) 画	杉と丘 ※亀岡八幡宮近辺
1085	昭和57年8月15日	東北大学ゆかりの絵画 (16)	岸田劉生 画	村嬢愛菊 ※阿部次郎 (法文) コレクション
1086	昭和57年9月1日	東北大学ゆかりの絵画 (17)	八木精一 (医) 画	水墨画 松影 ※藤田敏彦 (医) 教授書画帖
1087	昭和57年9月15日	東北大学ゆかりの絵画 (18)	阿部次郎 (法文) 書・ 小林淳男 (法文) 画 武内義雄 (法文) 書・ 勝本正晃 (法文) 画	阿部教授邸書画会合作二点 ※阿部次郎 (法文) コレクション
1088	昭和57年10月1日	東北大学ゆかりの絵画 (19)	本多光太郎 (6代総長) 画	マグネット ※藤田敏彦 (医) 教授書画帖
1089	昭和57年10月15日	東北大学ゆかりの絵画 (20)	末松 (不詳) 画	小川政孝先生の像 ※理学部教授 4代総長
1090	昭和57年11月1日	東北大学ゆかりの絵画 (21)	岡崎義恵 (法文) 画	霜菊
1091	昭和57年11月15日	東北大学ゆかりの絵画 (22)	太田正雄 (医) 画	江南春 ※藤田敏彦 (医) 教授書画帖
1092	昭和57年12月1日	東北大学ゆかりの絵画 (23)	原竜三郎 (理・工) 画	草花写生帖
1093	昭和57年12月15日	東北大学ゆかりの絵画 (24)	マックス・クリンゲル 画	逝ける母

12) 『学報』1075号 昭和57年3月15日 東北大学ゆかりの絵画 (6) 「表紙説明」に「医学部の教授には、太田正雄教授をはじめとして、余技ながら彩管に長じた人々が多かった」とある。

キャンパスの歴史

「片平丁キャンパスの今昔」 昭和49年 原田隆吉

片平のシンボルといえば、現在では桜やメタセコイア¹³⁾があげられることも多いが、かつては「松」であったらしく、カットにも松が用いられている。片平には旧制二高以来のものとされる松並木があり【写真5】、『学報』734号 昭和43年1月1日 表紙写真も片平丁構内の雪の松並木である。



【写真5】片平の松並木（旧制二高時代以来のもの）
昭和39年2月
東北大学関係写真データベース 東北大学史料館

【表7】

号	刊行年月日		表題
878	昭和49年1月1日	片平丁キャンパスの今昔 1.	はじめに
879	昭和49年1月15日	片平丁キャンパスの今昔 2.	現在の建物配置図
880	昭和49年2月1日	片平丁キャンパスの今昔 3.	寛文7年（1667）以前（伊達騒動のころ）
881	昭和49年2月15日	片平丁キャンパスの今昔 4.	延宝5年（1677）ころ（伊達騒動のあと）
882	昭和49年3月1日	片平丁キャンパスの今昔 5.	安政補正図（1854-60）
883	昭和49年3月15日	片平丁キャンパスの今昔 6.	明治13年宮城県仙台区全図（1880）
884	昭和49年4月1日	片平丁キャンパスの今昔 7.	第二高等中学校（旧二高）の設置
885	昭和49年4月15日	片平丁キャンパスの今昔 8.	二高と二高医学部（仙台医専）
886	昭和49年5月1日	片平丁キャンパスの今昔 9.	仙台高等工業学校（仙台工専）
887	昭和49年5月15日	片平丁キャンパスの今昔 10.	東北帝国大学の創立とその敷地
888	昭和49年6月1日	片平丁キャンパスの今昔 11.	医学専門部・工学専門部の附属
889	昭和49年6月15日	片平丁キャンパスの今昔 12.	東北帝国大学開学式
890	昭和49年7月1日	片平丁キャンパスの今昔 13.	桜小路東側民有地の受入（工学部の開設）
891	昭和49年7月15日	片平丁キャンパスの今昔 14.	弾正小路北側仙台監獄跡敷地の購入（鉄鋼研の設置）
892	昭和49年8月1日	片平丁キャンパスの今昔 15.	仙台高等工業学校の分離独立（南六軒丁）
893	昭和49年8月15日	片平丁キャンパスの今昔 16.	第二高等学校の敷地を受入（法文学部の開設）
894	昭和49年9月1日	片平丁キャンパスの今昔 17.	大正末年の驚異的な建物新営
895	昭和49年9月15日	片平丁キャンパスの今昔 18.	道路の整備と新正門の建設
896	昭和49年10月1日	片平丁キャンパスの今昔 19.	本部・化学教室・農学研究所・本多記念館
897	昭和49年10月15日	片平丁キャンパスの今昔 20.	軍事教練・学徒出陣・戦災・復員
898	昭和49年11月1日	片平丁キャンパスの今昔 21.	戦災復興と新制大学への改編（仙台工専敷地の合併）
899	昭和49年11月15日	片平丁キャンパスの今昔 22.	創立50年祝賀式と記念講堂の建設
900	昭和49年12月1日	片平丁キャンパスの今昔 23.	学部移転・研究所集中と多くの記念物
901	昭和49年12月15日	片平丁キャンパスの今昔 24.	片平丁の大学キャンパス

『東北大学学報』第901号 昭和49（1974）年12月15日 表紙には「片平丁キャンパスの今昔24. 片平丁の大学キャンパス」として、「現在本部前 昭和49年（1974）」の写真を掲げ、文章には、

13) たとえば、仙台市の「杜の都・仙台 わがまち緑の名所100選」の「東北大学片平キャンパス」<http://www.city.sendai.jp/ryokuchihozen/mesho100sen/ichiran/017.html> 更新日：2017年2月8日 では、「キャンパスのシンボリック存在のメタセコイアの並木」として、並木の写真が掲載されている。

今後の片平の地に対する希望が記されている。

正しくここは東北大学の生命の泉であつたし、今後も永くそうであることであろう。仙台市にとっては、ここは一貫して格の高い、気品のある、敬愛すべき地域であつたし、今後もそうであつてほしいものである。

そして、東北大学は古い由緒のある建物を利用して、ここに記念館か同窓会館をつくり、また市民にも親しまれる博物館や図書館をつくることを提唱している。現在の東北大学史料館はその希望の一部が実現したのものである。

みちのおく東北帝国大学の赤松の道黒松の道 これは岡崎義恵名誉教授の文学部在官中の作である。この大学の学風によせる自信とキヤムパスに寄せる深い愛情とが、ここにある。

東北大学史料館では、この歌の岡崎名誉教授自筆の書軸を所蔵しているが、その事情については「歌碑「みちのおく東北帝国大学の」のはじまり」原田隆吉（『回想 岡崎義恵先生』岡崎義恵先生追悼記念会 昭和58（1983）年）に記されている。それによれば、歌碑の建立が大学の規制で困難であったことから、自筆の書を「正式に」表装して保存する、それを「東北大学記念資料室の仕事として進めることとし」た。室長（附属図書館長の兼任）も「和歌に志ある方」であったのでこの企画に賛成し、経費は図書館の経理（記念資料室の事務は図書館事務が担当）に相談、表装は岡崎¹⁴⁾の自宅に見本運び決めた。表装終了後あらためて軸の表題と箱書を岡崎に依頼、この企画は完了する。先に示した澤柳総長の書も記念資料室で額装しているが、そうした風流も「記念資料室の仕事」であったのである。この軸は、記念資料室の展示や研修会などでも利用された【写真7】。後に原田が希望した通り片平の赤松並木と黒松並木が交わる位置に歌碑が建立され【写真6】ている。



【写真6】歌碑「みちのおく…」
建立式 昭和58年6月（部分）
東北大学関係写真データベース
東北大学史料館



【写真7】昭和50年度東北大学実務掛員実務研修
昭和50年10月
東北大学関係写真データベース 東北大学史料館

14) 岡崎が表装を重視していたのは「先生から表装についての諸般の知識を伝授された。これも文芸学の一分野であると言われた」（『岡崎先生の手紙』片野達郎 『回想 岡崎義恵先生』111頁）ことにもうかがえる。

「川内風土記」 昭和50年 高橋富雄

川内キャンパスについては高橋富雄教養部長が執筆を担当している。ただし東北大学川内キャンパスが形成されてからそれほど年月を経ていないためか、大学そのものについての記述は連載の最後の方になってようやく姿をみせている程度で、時には「川内」ともそれほど関係のない伊達家関係の記述が中心となっている場合も見られる。その意味では、本稿の分類では、次稿において扱う「『大学』から逸脱する」（本稿15頁）ものに近いが、各キャンパスの歴史というつながりを重視してこちらに記載する。片平の「松」に対して川内には「萩」のカットが用いられている。「萩」は宮城県のシンボルでもあり、大学全体の公式ロゴマークのモチーフとなっているが、川内には現在も実際に萩が植えられ、散歩道を形成し、講堂が「萩ホール」と呼ばれるなど「萩」が象徴として利用されている。

「川内風土記」連載終了時『東北大学学報』925号 昭和50年12月15日 「お知らせ」（2頁）に「高橋先生には、このシリーズ執筆中に教養部の異常事態に当面され、教養部長として激務のなかで中断されることなく執筆いただきました」と記され、その背景をうかがわせる。

シリーズの最後は「今が大切」と題し「現在の教養部構内」と「本多光太郎総長の色紙額」の写真が掲載されている。

時々、用事があつたり呼び出されたりして、学長室にまいります。はいつて正面の壁には「今が大切」と誠実をそのまま文字にしたように謹直な額が掲げられています。本多光太郎総長の筆なそうです。わたくしは、いつもこれを見上げてから、学長の前にすわることにしています。何ともいえない魅力と風格にあふれた字です。そしてわたくしはいつも思います。そうだ、「今が大切」なのだ、今こそが大切なのだ、と。

混乱の時期であっただけに、教養部長が学長室に赴く時は容易ならぬ事態であったことが少なくなかったであろうと思われるが、決まってそこに掲げられた書を見る行為に注意しておきたい。この色紙額そのものは川内と直接の関係はないが、大学の精神の指針としてここに示されている。

日本の学園づくりにおいて、川内の大学づくりの負うべき責任もすくなくないと思います。しかし、それもすべて、誠実で正確な「今」を大切にすることの上に築かるべきものでしょう。

教養部が川内に置かれていた時期、大学入学の際に新生に対する配付物として『川内のしおり』が作成され、新生にその場所がどのような過去を蓄積した場所であるかを周知するものとなっていた。史料館でも数点を所蔵¹⁵⁾している。



【写真8】総長室（本多光太郎色紙）
昭和50年（1975）12月
東北大学関係写真データベース
東北大学史料館
※『学報』掲載のため撮影されたと思われる。

15) 『川内のしおり』訂正増補版 1961年・再訂増補版 1971年・改訂 1983年 等

【表8】

号	刊行年月日	表題	号	刊行年月日	表題
902	昭和50年1月1日	川内風土記 1. 事はじめ	926	昭和51年1月1日	星陵地区キャンパスの今昔 1. まえがき
903	昭和50年1月15日	川内風土記 2. 川内と仙台	927	昭和51年1月15日	星陵地区キャンパスの今昔 2. 養賢堂の医学教育
904	昭和50年2月1日	川内風土記 3. 「せんだい」の呼び名	928	昭和51年2月1日	星陵地区キャンパスの今昔 3. 医学校の医学教育
905	昭和50年2月15日	川内風土記 4. 仙台はじめて見る	929	昭和51年2月15日	星陵地区キャンパスの今昔 4. 医学校の整備
906	昭和50年3月1日	川内風土記 5. 川内ということ	930	昭和51年3月1日	星陵地区キャンパスの今昔 5. 医学校の蘭科
907	昭和50年3月15日	川内風土記 6. 広瀬川	931	昭和51年3月15日	星陵地区キャンパスの今昔 6. 佐々木中沢と小関三栄
908	昭和50年4月1日	川内風土記 7. 青葉山	932	昭和51年4月1日	星陵地区キャンパスの今昔 7. 維新前後の小野寺丹元
909	昭和50年4月15日	川内風土記 8. 川内原史	933	昭和51年4月15日	星陵地区キャンパスの今昔 8. 共立病院の成立
910	昭和50年5月1日	川内風土記 9. もくりこくりの碑	934	昭和51年5月1日	星陵地区キャンパスの今昔 9. 宮城病院の創立
911	昭和50年5月15日	川内風土記 10. 千代城戦国	935	昭和51年5月15日	星陵地区キャンパスの今昔 10. 宮城医学校
912	昭和50年6月1日	川内風土記 11. 風土をつくった人	936	昭和51年6月1日	星陵地区キャンパスの今昔 11. 第二高等学校医学部
913	昭和50年6月15日	川内風土記 12. 伊達遍歴物語	937	昭和51年6月15日	星陵地区キャンパスの今昔 12. 明治初期の宮城病院
914	昭和50年7月1日	川内風土記 13. 第2風土記の始まり	938	昭和51年7月1日	星陵地区キャンパスの今昔 13. 仙台医学専門学校
915	昭和50年7月15日	川内風土記 14. まれ人川内訪問	939	昭和51年7月15日	星陵地区キャンパスの今昔 14. 仙台医学専門学校附属宮城病院
916	昭和50年8月1日	川内風土記 15. おくのはそ道	940	昭和51年8月1日	星陵地区キャンパスの今昔 15. 東北帝国大学医学専門部
917	昭和50年8月15日	川内風土記 16. 川内夢のまた夢	941	昭和51年8月15日	星陵地区キャンパスの今昔 16. 東北帝国大学医学専門部附属宮城病院
918	昭和50年9月1日	川内風土記 17. 川内の明治維新	942	昭和51年9月1日	星陵地区キャンパスの今昔 17. 東北帝国大学医科大学の設置
919	昭和50年9月15日	川内風土記 18. 国軍の府	943	昭和51年9月15日	星陵地区キャンパスの今昔 18. 東北大学医学部の整備
920	昭和50年10月1日	川内風土記 19. 荒城の詩碑	944	昭和51年10月1日	星陵地区キャンパスの今昔 19. 大学病院の沿革
921	昭和50年10月15日	川内風土記 20. 白壁の租界	945	昭和51年10月15日	星陵地区キャンパスの今昔 20. 大学病院の整備
922	昭和50年11月1日	川内風土記 21. 川内の人ばしら	[946]	昭和51年11月1日	星陵地区キャンパスの今昔 21. 長町分院と鳴子分院
923	昭和50年11月15日	川内風土記 22. 大いなる遺産	947	昭和51年11月15日	星陵地区キャンパスの今昔 22. 歯学部沿革
924	昭和50年12月1日	川内風土記 23. 大学民族移動	948	昭和51年12月1日	星陵地区キャンパスの今昔 23. 抗酸菌病研究所
925	昭和50年12月15日	川内風土記 24. 今が大切	949	昭和51年12月15日	星陵地区キャンパスの今昔 24. 医療技術短期大学部

「星陵地区キャンパスの今昔」 昭和51年 山形徹一

医学部山形徹一教授の執筆である。記述は仙台藩校養賢堂から始まり¹⁶⁾、場所の記憶であるよりは、仙台医学史としての性格が強い。執筆者山形徹一には仙台の医学史についての著述¹⁷⁾がある。山形は東北大学における医学史の研究教育活動について、次のように記しており、これらの蓄積の上にこの連載は行なわれたのである。

医学史研究を始める端緒を与えられた故山川章太郎教授、東北大学医学部医学史同好会を創設されて斯学研究の基礎を置かれた佐武安太郎前総長、長谷部言人名誉教授、青木大輔博士等に深甚なる敬意を表する

「仙台藩に於ける医学及び蘭学の発達」山形徹一（『仙台市史 第4巻（別篇 第2）

仙台市史編纂委員会 編 仙台市 昭和26（1951）年）544頁

東北帝大医学部において医学史が特殊講義として行われたのは昭和六年で、隔年毎に講述された。講師

16) 東北大学大学院医学系研究科・医学部では、現在も「沿革」を1736（元文元）年11月1日仙台藩明倫養賢堂設置（仙台市北三番丁細横丁に設置）から始めている。https://www.med.tohoku.ac.jp/about/history/index.html

17) 「仙台藩に於ける医学及び蘭学の発達」山形徹一（『仙台市史 第4巻（別篇 第2）仙台市史編纂委員会 編 仙台市 昭和26（1951）年）・「医学教育」山形徹一（『宮城県史』第11（教育）宮城県史編纂委員会 編 宮城県史刊行会 昭和34（1959）年）など。

は初め富士川游博士、次いで十二年より慶大教授藤浪剛一博士、その歿後山崎佐博士が嘱託されたが、さらに十八年より山形徹一教授が担任して終戦に及んだ。

「医学教育」山形徹一（『宮城県史』第11（教育）
宮城県史編纂委員会 編 宮城県史刊行会 昭和34（1959）年）642頁

太田〔正雄〕先生からいろんな話を聞いたのです。たとえば、日本の漢方医学と蘭方を中心とした西洋医学の比較論などであります。（中略）それが先生の最も得意なテーマであることを私は知っていたからであります（笑い）。太田先生は満州医科大学教授を数年やり、愛知医大を経て東北大学に来られたので、漢方医学のことは非常に詳しい。

「医学とわが半生」山形徹一
（初出：医学部新生歓迎会講演会要旨 昭和五一・四・一〇 『尚仁会誌』28 昭和52年6月）
『随筆集 木蘭の庭』山形徹一 山形徹一名誉教授叙勲祝賀会 昭和61年 269頁

なんで私が内科をやる気になったかということですが、私は学生時代から歴史が好きでありまして、医学の歴史を読んでいました。そうすると、医学の歴史というものはすべて内科が中心で研究されています。（中略）従いまして、医学の本道は内科学であるということは、常識的に私の身についておりました。医学即内科学という観念が私のなかにあったと思うのであります。 同上 270-271頁

それは、医学部における医学史同好会の活動、医学史の講義であるが、山形は学生時代から好んで医学史の書物を読み、あるいは、漢方・蘭方の比較を得意とした太田正雄教授¹⁸⁾（木下奎太郎・東北帝国大学医学部教授 在任：1926年-1937年）の話を聞いたこともあった。

山形はまた歌人でもあった。歌集のほか、『みちのく文化私考』山形徹一 万葉堂出版 1983年などの著述もある。

山形さんは、医の人であるとともに文の人でもあった。年少にして短歌に親しみ、大学在学中の昭和九年結城哀草果に師事して「アララギ」に入会、一貫して短歌写生の道を歩まれた。さすが自然科学専攻であるだけに観察は微細的確、その表現も写実に徹する歌風で、一つの信念のもとに徒らに流行を追うことはなかった。

その刊行された歌集は十数冊に及ぶほど多作で、学会などで外国出張毎に毎回一冊の歌集を刊行された。

「医と歌の人」扇畑忠雄 『群山』第53巻12号（通巻620号）
東北アララギ会群山発行所 平成10年12月 71頁

「東北大学今昔画話」 昭和52年 渡辺萬次郎

スケッチと文章で構成される。第954号 3月1日からスケッチと文章ともに署名が入り、渡辺萬次郎名誉教授のものと明示される。渡辺萬次郎名誉教授については、『学報』1076号表紙の「東北大学ゆかりの絵画（7）」で「川内風景、スケッチ2点」が取上げられ「表紙説明」（2頁）に渡辺の経歴・業績・人柄が簡潔にまとめられている。

18) 太田正雄は医学史同好会に参加している。「太田正雄教授と阿部次郎教授と」山形徹一 『東北大学学報』1167号 昭和61年1月15日 25頁 参照。

渡辺萬次郎教授は、本学創立最初の学部である理学部の初期の卒業生である。大正8年地質学教室の助教授となり、欧州に留学し、大正12年に帰朝してから岩石鉱物鉱床学科の鉱床学講座の教授となった。そして東北地方の金属鉱床や硫化鉱物に関する調査研究をさかんにおこない、多くの業績をあげた。昭和30年停年によって退官したが、招かれて秋田大学の学長となり、新しい大学の基礎づくりに大きな功労があった。退官ののち、多くの門下学者に惜しまれつつ仙台で逝去された（昭和55年5月）。先生は、率直にして清朗、よく人々に慕われる好ましい人柄で、東北大学卒業生中の大先輩として多くの人から敬愛された。随筆、和歌に親しみ、専門との関係もあってスケッチを好くものされた。特に晩年になってからは、昔から馴染んだ仙台周辺の緑がどんどん失われて行くのを痛惜し、スケッチを志して、「緑を惜しんで」シリーズ5冊を刊行された。

「東北大学卒業生中の大先輩」が描く「今昔画話」としての特徴は、「変遷」を書き込んだスケッチに現れている。スケッチの説明からいくつか取上げてみる。

星霜早くも50年取払中の手前の建物は、明治43年本学最初に出来た理科大学北館（第951号 1月15日）
 岩石本館 鉄筋コンクリート煉瓦張 初2階半 後1階追加（第957号 4月15日）
 戦前の化学教室と戦後の物理教室 その間から大正以来増築を重ねた地球物理の残影が見える。
 （第960号 6月1日）

一つの風景に時間が重層的に描き込まれているのであるが、それは「大先輩」である画者の体験・記憶に裏打されたものであった。「化学の新館」（「東北大学今昔画話11」第960号 6月1日）の文章には、東北大学片平キャンパスの建築変遷の流れが整理されている。

東北大学創立の頃は、建物の大部分は木造で、コンクリートは全然なく、煉瓦造が特別に新風を誇っていた。理科大学の北館などがその例で、大正10年、地質教室が仙台最初の鉄筋コンクリート建となつても、その表面には赤煉瓦が張られ（中略）

その後の建築は大部分鉄筋コンクリート造で（中略）何れも実用本位であつた。ところが化学の新館は、広い堂々たる玄関の内側に、余裕充分な階段を設け、東北大学としては特徴のあるものであつた。これに対してその翌年にできた大学本部の木造二階建はいかにも簡素なものであつたが、



【写真9】理学部化学教室（内観）昭和10年（1935）頃か



【写真10】本部2号館（旧本部棟）解体直前 平成20年2月
 東北大学関係写真データベース 東北大学史料館

変遷はその後も続く。この化学教室はその後改築され、平成23（2011）年以降は東北大学本部が入り、現在登録有形文化財となっている。本部は「いかにも簡素な建物」から「堂々たる」構えを持った建築に移ったのである。

渡辺は研究以外の執筆活動について「唯一の室内慰安は、目で見たり、心に感じたことをわかり易く、或いは気に入った文章として世間に発表することであった」¹⁹⁾と述べている。「書くこと」に注ぎ込まれた熱意の表れの一つが、この連載であった。 【未完】

【表9】

号	刊行年月日		表題
950	昭和52年1月1日	東北大学今昔画話 1.	開学の盛儀（画 東北大学発祥之地記念碑）
951	昭和52年1月15日	東北大学今昔画話 2.	最初の建物（画 取払中の理科大学北館）
952	昭和52年2月1日	東北大学今昔画話 3.	医専跡の吸収（画 医専実習室最北棟）
953	昭和52年2月15日	東北大学今昔画話 4.	医学部と病院（画 臨床新館から見た医学部）
954	昭和52年3月1日	東北大学今昔画話 5.	高工と工学部（画 高工跡の新工学部）
955	昭和52年3月15日	東北大学今昔画話 6.	総長と学長（画 理学部新館と小川記念園）
956	昭和52年4月1日	東北大学今昔画話 7.	鉄鋼研と金研（画 理学部からみた金研）
957	昭和52年4月15日	東北大学今昔画話 8.	理学部の北進（画 金研から見た理学部北部）
958	昭和52年5月1日	東北大学今昔画話 9.	二高の転出（画 法文学部の新館）
959	昭和52年5月15日	東北大学今昔画話 10.	正門と図書館（画 正門から東望）
960	昭和52年6月1日	東北大学今昔画話 11.	化学の新館（画 戦前の化学教室と戦後の物理教室）
961	昭和52年6月15日	東北大学今昔画話 12.	桜小路の変貌（画 北門から見た工学部）
962	昭和52年7月1日	東北大学今昔画話 13.	法文学部の発展（画 法文学部の中庭）
963	昭和52年7月15日	東北大学今昔画話 14.	戦禍の跡（画 戦災直後の理学部本館）
964	昭和52年8月1日	東北大学今昔画話 15.	高専校の包摂（画 第一教養部の遠望）
965	昭和52年8月15日	東北大学今昔画話 16.	二教のその後（画 第二次工高跡の近状）
966	昭和52年9月1日	東北大学今昔画話 17.	教育教養部の特質（画 包摂当時の付属小）
967	昭和52年9月15日	東北大学今昔画話 18.	農学部に進出（画 農学部の新館）
968	昭和52年10月1日	東北大学今昔画話 19.	川内分校の展開（画 接収直後の川内分校）
969	昭和52年10月15日	東北大学今昔画話 20.	青葉山の変貌（画 山上の三学部）
970	昭和52年11月1日	東北大学今昔画話 21.	法文系の新川内移転（画 二の丸跡の新学園）
971	昭和52年11月15日	東北大学今昔画話 22.	医学部の新館（画 新旧の対照）
972	昭和52年12月1日	東北大学今昔画話 23.	星霜70年（画 開学式場跡の変転）
973	昭和52年12月15日	東北大学今昔画話 24.	今後に残るもの（画 法文記念碑と桜の並木）

※（画 ）内の記述は「学報目録」による

【謝辞】 本稿の平成30年「大道平坦」額移転に関する記述については、東北大学附属図書館情報サービス課貴重書係に内容を確認していただいた。また「東北大学と旧制二高展」展示状況【写真2】を御提供いただいた。深く感謝申し上げます。

19) 『思い出の記 一人の一生』 渡辺萬次郎 昭和55年 77頁